

海外ビジネス情報

バンコク

モーターエキスポ2025を視察して

北陸銀行 国際部
バンコク駐在員事務所
所長 湧川 裕明

1. はじめに

2025年11月29日から12月10日の期間、バンコク郊外のインパクト・ムアントンタニ展示場にて東南アジア最大級となる自動車・バイクの展示即売会『モーターエキスポ2025』が開催され、152万人が来場しました。筆者も現地を訪れ、EVを中心に中国系メーカーの存在感がますます高まっていることを強く感じました。

2. 中国EVメーカーの攻勢

モーターエキスポ開催期間中の予約販売台数は年々増加しており、2025年は合計75,246台と過去最高を記録しました。特筆すべきは、販売台数上位10社のうち7社を中国系メーカーが占め、中国勢の台頭が顕著になっていることです。出展ブランド全40社のうち、約半数の19社が中国系で、日本ブランドは8社でした。結果、成約台数に占める中国ブランドのシェアは57.6%と半数を超え、日本ブランドは35.6%にとどまりました。また、成約台数のうち約半数がEV車となっており、中国ブランド各社によるEV車の大幅な値引き販売も予約数を押し上げた要因のひとつと見られています。

【表1 MOTOR EXPO開催期間中の予約販売台数】

2022年	(単位:台)	2023年	(単位:台)	2024年	(単位:台)	2025年	(単位:台)				
1 Toyota	5,084	17.4%	1 Toyota	7,245	13.6%	1 Toyota	8,297	15.2%	1 Toyota	10,872	14.4%
2 Honda	2,795	9.5%	2 Honda	6,149	11.5%	2 BYD	6,917	12.7%	2 Honda	6,278	8.3%
3 Isuzu	2,383	8.1%	3 BYD	5,455	10.2%	3 Honda	5,081	9.3%	3 BYD	6,212	8.3%
4 Suzuki	2,028	6.9%	4 AION	4,568	8.6%	4 AION	3,668	6.7%	4 OMODA JAECOO	5,217	6.9%
5 MG	1,965	6.7%	5 MG	3,568	6.7%	5 MG	3,311	6.1%	5 GAC	5,019	6.7%
6 Nissan	1,908	6.5%	6 長安汽車	3,549	6.7%	6 DEEPAL	2,756	5.1%	6 GEELY	4,831	6.4%
7 Mazda	1,760	6.0%	7 GWM	3,524	6.6%	7 MITSUBISHI	2,609	4.8%	7 MG	4,827	6.4%
8 BYD	1,701	5.8%	8 Isuzu	2,460	4.6%	8 Nissan	2,219	4.1%	8 GWM	4,609	6.1%
9 GWM	1,439	4.9%	9 Nissan	2,459	4.6%	9 GWM	2,060	3.8%	9 DEEPAL	4,586	6.1%
10 Ford	1,409	4.8%	10 Mazda	1,961	3.7%	10 NETA	2,016	3.7%	10 MITSUBISHI	2,988	4.0%
その他	6,802	23.2%	その他	12,310	23.1%	その他	15,579	28.6%	その他	19,807	26.3%
合計	29,274	100.0%	合計	53,248	100.0%	合計	54,513	100.0%	合計	75,246	100.0%

■ 日系メーカー ■ 中国系メーカー

(MOTOR EXPO HPデータより事務所作成)

3. タイの消費者に浸透する中国ブランド

中国勢は、BYDやMGといったメジャーブランドに加え、吉利汽車のZEEKRやBYD系のDENZAといった高価格帯モデルから、五菱(Wuling)のような低価格帯モデル(30万バーツ(約150万円))まで、幅広い価格帯で展開しています。近未来的なデザイン、豊富な車載サービス、自動運転やソフトウェアの自動更新など、先進的な機能・装備を備え、価格競争力も非常に高いイメージがあります。

日頃からGrabやBolt等の配車サービスを利用しBYD車に乗ることがありますが、運転席周りはスイッチ類が少なく、ほとんどの操作がタッチパネルで完結するため、車内は洗練された印象を受けます。タイ都市部の若年層・中間所得層を中心に、中国車に対するイメージは「安かろう、悪かろう」から「スマートデバイスとしてのクルマ」に変化しており、中国ブランドへの支持が拡大しています。



BYDブースに展示のDOLPHIN(約220万円) (筆者撮影)

4. おわりに

タイ政府のEV振興策に後押しされ、中国EVメーカーは次々とタイに生産拠点を設けています。建設中を含めた中国系工場の生産能力は、2024年のタイ国内市場規模を上回る60万台超と見込まれています。

しかし、現地調達や現地化は限定的で、ほぼ全ての部品は中国から輸入されており、既存の日系および地場系サプライヤーへの恩恵はほとんどありません。工場の設計・施工から労働力確保、物流に至るまで中国企業内で完結させるケースが多く、中国人居住者だけをターゲットにした経済圏が形成されつつあります。中国語表記のレストランでは中国系アプリによる支払いが主流となるなど、タイ国内に資金が還元されにくい仕組みとなっており、「ゼロパーツ工場」との批判も出始めています。今後、政府の規制や政策の動向に注目が必要です。

<ご注意> 文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。記載内容については、ご利用者の判断と責任のもと、ご利用くださいますようお願いいたします。

ほくりく長城会

海外ビジネス情報

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F
(株)人材情報センター内
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565
E-mail: info@chojo-hokugin.jp